

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法概論			担当講師	長谷川 聡		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1年次	学 期	前期
概 要	学療法概念、定義、リハビリテーション医学・医療の歴史を通じて、日本における理学療法士の役割についての専門職としての理念、役割を考える基盤を得る。						
到達目標	1. 理学療法の定義について説明できる 2. 理学療法とリハビリテーションの違いについて説明できる 3. 理学療法、理学療法学の学問的範囲ならびにその広がりについて説明できる 4. 理学療法士としてのアイデンティティについて説明できる 5. 対象者の基本的権利を理解し説明できる 6. 自己決定権の意義を踏まえながら対応できる 7. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる 8. 医療および理学療法の歴史的な流れとその意味を説明できる 9. 理学療法士に求められるさまざまな役割、法的義務について説明できる 10. 社会背景、多様な個人の価値観を認識し柔軟に対応できる 11. 状況に応じて説明責任を果たすことができる 12. 情報管理の必要性について説明できる 13. 知り得た情報の発信、記録、保存に関して、情報漏洩などのリスク管理ができる 14. キャリアパス、キャリア開発の概念について説明できる 15. 社会と理学療法の関連性について理解し、個々のキャリアパスの検討に活用することができる 16. 自ら卒業後のキャリアデザインを表現する						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	理学療法とは						
2	理学療法士を取り巻く法令制度（PT・OT法等）						
3	理学療法の歴史						
4	理学療法学教育						
5	理学療法における管理						
6	理学療法の基盤（EBM・ICF）						
7	理学療法の職域・職域開拓						
8	理学療法士の組織（日本理学療法士協会）と活動（生涯学習システム等）						
9	理学療法士としての適性と資質						
10	理学療法の対象と治療手段①						
11	理学療法の対象と治療手段②						
12	理学療法の対象と治療手段③						
13	理学療法の対象と治療手段④						
14	理学療法の対象と治療手段⑤						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。						
教科書	理学療法概論第7版						
参考書	適宜、資料等を提供する場合あり。						

備 考	※しっかりと自己学習（復習）してください。
-----	-----------------------

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	基礎運動学Ⅰ			担当講師	高倉 秀暢		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	身体運動の基本をなす力学・解剖学・生理学を踏襲した上で、体力、運動処方、姿勢、歩行、運動発達、運動学習、バイオメカニズムについて学ぶ。						
到達目標	リハビリテーション医学を学ぶ上で必須となる身体運動に関する知識を深める。 1. 運動のメカニズムを理解し、説明できる。 2. 関節運動の種類と特徴が説明できる。 3. 筋収縮の種類と理論が説明できる。 4. 基本的な運動分析が行える。 5. 正常歩行の内容を理解し、異常歩行の説明ができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	歴史及び運動学とは、運動の仕組み及び運動学用語の説明
2	細胞・組織・器官の構造と働き、筋線維・神経細胞
3	骨の構造と機能、関節の構造、腱・靱帯の構造と機能
4	筋の解剖、筋収縮のメカニズム、神経筋接合部
5	上肢帯：神経・関節、肩甲骨
6	肩関節の運動学
7	上腕の筋と運動
8	肘の解剖と運動学、前腕の筋と解剖
9	手関節・手指の運動学
10	股関節の運動学、大腿の筋・作用
11	膝関節の運動学
12	足部の運動学
13	脊柱の運動学、胸部の運動学、腰部・腹部の解剖と運動学
14	顔面の解剖と運動学、声門の開閉、眼の運動学
15	筆記試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	基礎運動学第6版補訂 医歯薬出版
参考書	筋骨格系のキネシオロジー原著第3版 医歯薬出版
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	基礎運動学Ⅱ			担当講師	加藤 仁志・山神 翔太		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	身体運動の基本をなす力学・解剖学・生理学を踏襲した上で、体力、運動処方、姿勢、歩行、運動発達、運動学習、バイオメカニズムについて学ぶ。						
到達目標	1. 生体力学、バイオメカニクスの基礎について説明できる。 2. 体力と運動処方について説明できる。 3. 基本動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる。 4. 基本動作のメカニズムについて説明できる。 5. 活動（運動）を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について説明できる。 6. 随意運動の制御システムについて説明できる。 7. 運動発達の基礎について説明できる。 8. 運動学習理論について説明できる。 9. 運動学習の過程とそのモデルについて説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス
2	生体力学の基礎①
3	生体力学の基礎②
4	生体力学の基礎③
5	生体力学の基礎④
6	体力と運動処方①
7	体力と運動処方②
8	体力と運動処方③
9	体力と運動処方④
10	中間テスト
11	姿勢①
12	姿勢②
13	歩行①
14	歩行②
15	歩行③
16	歩行④
17	姿勢制御と運動制御①
18	姿勢制御と運動制御②
19	運動学習①
20	運動学習②
21	運動発達の基礎①
22	運動発達の基礎②
23	期末テスト

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	基礎運動学第6版補訂 医歯薬出版 標準理学療法学 運動療法学総論第4版 医学書院
参考書	運動療法学 金原出版 運動学習理論に基づくリハビリテーションの実践第2版 医歯薬出版
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	運動学実習			担当講師	武藤 久司		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	運動学における各分野の特徴を学修する。主に臨床で行われている運動学的技法（動作解析、トルク測定など）に関して機器の取扱い及び演習を行う。						
到達目標	運動学で学んだ知識を、演習を通じて理解・習得する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、機器を用いた各種測定（1）（講義・演習）
2	機器を用いた各種測定（2）（演習）
3	機器を用いた各種測定（3）（演習）
4	BIODEX測定の説明（1）（講義）
5	BIODEX測定の説明（2）（講義）
6	三次元動作分析装置VICON測定の説明（1）（講義）
7	三次元動作分析装置VICON測定の説明（2）（講義）
8	トルク測定装置を用いた等速性筋力の測定（1）（講義・演習）
9	トルク測定装置を用いた等速性筋力の測定（2）（講義・演習）
10	三次元動作解析装置を用いた運動解析（1）（講義・演習）
11	三次元動作解析装置を用いた運動解析（2）（講義・演習）
12	歩行の定量的測定（速度、歩幅、ケイデンスなど）（1）（講義・演習）
13	歩行の定量的測定（速度、歩幅、ケイデンスなど）（2）（講義・演習）
14	種々のパフォーマンス測定の実際（1）（講義・演習）
15	種々のパフォーマンス測定の実際（2）（講義・演習）

評価方法	出席、実習参加状況、課題等を加味し総合的に評価する。
教科書	基礎運動学 第6版補訂 医歯薬出版 プロメテウス解剖学コアアトラス 第2版 医学書院 新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社
参考書	運動療法のための機能解剖学的触診 上肢 改訂第2版 メジカルビュー社
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法研究法Ⅰ			担当講師	佐用 寛文・長谷川 聡		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法学での身体の計測、機器の操作を学ぶ。また、テーマを絞り込み、文献検索や論文作成等、理学療法研究を総合的に学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法計測機器の操作を理解する。 2. 計測データをまとめ報告書を作成できるようになる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	研究について①
3	学会参加①
4	学会参加②
5	研究について②
6	研究について③
7	研究について④
8	研究について⑤
9	文献検索①
10	文献検索②
11	英語論文の読み方①
12	英語論文の読み方②
13	研究計画作成について①
14	研究計画作成について②
15	研究計画作成について③

評価方法	レポート、発表等を加味し総合的に評価する。
教科書	PT・OTのための臨床研究はじめての一步 羊土社
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法研究法Ⅱ			担当講師	佐用 寛文		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	理学療法学での身体の計測、機器の操作を学ぶ。また、テーマを絞り込み、文献検索や論文作成等、理学療法研究を総合的に学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法計測機器の操作を理解する。 2. 計測データをまとめ報告書を作成できるようになる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	研究計画発表①
2	研究計画発表②
3	研究計画発表③
4	研究計画発表④
5	研究について①
6	研究について②
7	研究について③
8	研究について④
9	研究について⑤
10	研究について⑥
11	論文作成①
12	論文作成②
13	論文作成③
14	発表①
15	発表②

評価方法	レポート、発表等を加味し総合的に評価する。
教科書	PT・OTのための臨床研究はじめの一步 羊土社
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	総合理学療法Ⅰ			担当講師	学科専任教員		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	理学療法の見学・模倣を中心に実施する見学実習Ⅰ・Ⅱにて経験したことを基に、解剖学的・生理学的・運動学的視点と関連付けて、理学療法の知識・技術を整理・統合する。						
到達目標	1. 解剖学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 2. 生理学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 3. 運動学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	解剖学的視点から考える理学療法①（講義）
3	解剖学的視点から考える理学療法②（講義）
4	解剖学的視点から考える理学療法③（演習）
5	解剖学的視点から考える理学療法④（演習）
6	生理学的視点から考える理学療法①（講義）
7	生理学的視点から考える理学療法②（講義）
8	生理学的視点から考える理学療法③（演習）
9	生理学的視点から考える理学療法④（演習）
10	運動学的視点から考える理学療法①（講義）
11	運動学的視点から考える理学療法②（講義）
12	運動学的視点から考える理学療法③（演習）
13	運動学的視点から考える理学療法④（演習）
14	総まとめ
15	終講試験

評価方法	筆記試験にて評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法管理学			担当講師	小手 彰太		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法士として勤務する場合、対象者のもっているリスクを把握することは当然のこと、危機を未然に防ぐマネジメント能力が不可欠である。本授業では臨床に限らず、教育・研究・地域の領域における管理・マネジメント全般について取り上げる。医療保険制度、介護保険制度を理解し、職場管理、理学療法教育に必要な能力を培うとともに、職業倫理を高める態度を養う。						
到達目標	1. 理学療法の実施とその対価（診療報酬・介護報酬など）について説明できる 2. 理学療法の実施後の診療記録と書類管理（電子カルテなどを含む）について説明できる 3. 理学療法の実施における他職種との業務調整（処方内容の確認、他職種への申し送り）について説明できる 4. 理学療法の実施に関わるカンファレンスについて説明できる 5. 理学療法機器の保守点検・安全管理について説明できる 6. 理学療法機器の配置計画（職場環境デザインを含む）について説明できる 7. 人事考課（職員採用・昇格審査など）について説明できる 8. 労務管理（勤務時間・休暇管理など）について説明できる 9. 個人情報および、その漏洩防止策について説明できる 10. コンプライアンス・法令違反について説明できる 11. 医療広告ガイドラインならびに医療広告規制について説明できる 12. ハラスメントについて説明できる 13. 対象者・他職種との利害衝突ならびにコンフリクトマネジメントについて説明できる 14. 臨床教育の方法（メンター制、プリセプター制など）について説明できる 15. 生涯学習制度について説明できる						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、理学療法管理学とは						
2	管理・マネジメントの概念（理学療法士の法律と周辺的环境）						
3	管理・マネジメントの概念（理学療法士の行う管理・マネジメント）						
4	理学療法士の職業倫理（コンプライアンス、ハラスメント、医療広告ガイドライン、コンフリクトマネジメントを含む）						
5	組織運営とマネジメント						
6	理学療法士の職場管理						
7	人事労務管理						
8	教育システム						
9	理学療法業務のマネジメント						
10	教育・研究のマネジメント						
11	保健・医療・福祉を取り巻く諸制度とマネジメント						
12	疾患別・病期別の理学療法マネジメント						
13	生活期を支援する理学療法マネジメント						
14	経営管理						
15	まとめ						
評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	理学療法管理学 医歯薬出版						
参考書	リハビリテーション管理・運営実践ガイドブック メジカルビュー社 理学療法管理学 南江堂						

備 考	
-----	--

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価学基礎Ⅰ			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	評価は理学療法を実施する上で治療目標、プログラム立案等を行う過程の中で基本である。 ここでは理学療法の基礎となる評価について一連の流れを学習し、基本的な検査・測定を学ぶ。						
到達目標	1. 理学療法評価の目的と評価方法について説明できる 2. バイタルサイン（血圧、脈拍、呼吸数など）が確認できる 3. 機能形態計測（四肢長、周径など）が実施できる 4. 関節可動域制限の程度と関連要因を把握する評価が実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーションおよび評価総論（評価の意義・目的・過程）
2	評価総論（評価の意義・目的・過程）
3	バイタルサインの意義・目的と実際
4	バイタルサイン測定
5	形態測定の意義・目的と実際（上肢）
6	形態測定（下肢）
7	ROM測定意義・目的と実際（肩関節）
8	ROM測定（肩関節）
9	ROM測定（肩関節、肩甲帯）
10	ROM測定（肩甲帯）
11	ROM測定（肘関節、前腕）
12	ROM測定（手関節）
13	ROM測定（手関節）
14	ROM測定（股関節）
15	ROM測定（股関節）
16	ROM測定（股関節）
17	ROM測定（膝関節）
18	ROM測定（足関節）
19	ROM測定（足関節）
20	総合演習
21	実技試験
22	実技試験
23	筆記試験

評価方法	出席、筆記試験・実技試験、身だしなみ、授業態度等を加味し総合的に評価する
------	--------------------------------------

教科書	理学療法評価学 第6版補訂版 金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂版 金原出版
参考書	図解理学療法検査・測定ガイド 第2版 文光堂
備考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価学基礎Ⅱ			担当講師	米田 彰		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	36 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	評価は理学療法を実施する上で治療目標、プログラム立案等を行う過程の中で基本である。ここでは理学療法の基礎となる徒手筋力検査（MMT）について一連の流れを学習し、基本的な検査・測定を学ぶ。						
到達目標	1. 徒手筋力検査の目的について説明できる。 2. 徒手筋力検査の一連の流れ・方法について説明できる。 3. 筋力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	MMT総論①
2	MMT総論②
3	MMT実技①：肩関節の屈曲、伸展、外転、外旋、内旋
4	MMT実技②：肩関節の水平外転、水平内転、肘関節の屈曲、伸展
5	MMT実技③：前腕の回外、回内、股関節の屈曲、縫工筋
6	MMT実技④：股関節の伸展、外転、大腿筋膜張筋、内転
7	MMT実技⑤：股関節の外旋、内旋、膝屈曲、伸展、足底屈、背屈
8	MMT実技⑥：上下肢MMTまとめ
9	MMT実技⑦：肩甲骨の外転+上方回旋、挙上、下制
10	MMT実技⑧：肩甲骨の下制+内転、内転+下方回旋、内転
11	MMT実技⑨：頭頸部の屈曲、伸展、回旋
12	MMT実技⑩：体幹の屈曲、伸展、回旋、骨盤挙上
13	MMT実技⑪：頭頸部・体幹MMTまとめ
14	MMT総まとめ①
15	MMT総まとめ②
16	MMT総まとめ③
17	実技試験
18	筆記試験

評価方法	実技試験・筆記試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版補訂 金原出版
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法評価技術論Ⅰ			担当講師	長谷川 聡		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	36 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法評価総論を基に実技を加え、実際の評価方法を学習する。また、学習した内容を基に臨床実習だけではなく理学療法士として業務を円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. レントゲン画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 2. CT, MRI画像から理学療法実施上の留意点について説明できる。 3. 医療面接時のポイントが説明できる 4. 適切な医療面接が実施できる。 5. 疼痛の程度と関連要因を把握する評価が実施できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	整形テスト（頸部）						
3	整形テスト（上肢）						
4	整形テスト（体幹）						
5	整形テスト（骨盤帯）						
6	整形テスト（下肢）						
7	整形テスト（下肢）						
8	痛みの評価（医療面接）						
9	痛みの評価（VAS・NRS・身体図・face scale）						
10	痛みの評価（触診・運動検査）						
11	痛みの評価（荷重検査）						
12	画像評価（運動器系）						
13	画像評価（運動器系）						
14	まとめ						
15	まとめ						
16	終講試験（実技）						
17	終講試験（実技）						
18	終講試験（筆記）						
評価方法	筆記試験（50％）と実技試験（50％）で評価をする。						
教科書	1, 整形外科ポケットマニュアル 2, リハで読むべき運動器画像						
参考書	なし						
備 考	備考：動きやすい服装で授業に臨むこと。						

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価技術論Ⅱ			担当講師	鈴木 康平・稲川 良		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	36 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法評価総論を基に実技を加え、実際の評価方法を学習する。また、学習した内容を基に臨床実習だけではなく理学療法士として業務を円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. 各評価の目的と評価方法について説明できる 2. 障害の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 3. 評価結果から患者の障害像が想起できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、知覚検査①
2	知覚検査②
3	反射検査①
4	反射検査②
5	筋緊張検査①
6	筋緊張検査②
7	脳神経検査①
8	脳神経検査②
9	運動麻痺の検査①
10	運動麻痺の検査②
11	協調性検査①
12	協調性検査②
13	不随意運動検査（アテトーゼ・PD・バリエーション等）
14	脳画像の見方（CT・MRI等），高次脳機能検査
15	総合演習
16	実技試験
17	実技試験
18	筆記試験

評価方法	出席、筆記・実技試験等を加味し総合的に評価をする
教科書	ベツトサイドの神経の診かた 南山堂
参考書	理学療法評価学 第6版 金原出版
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	臨床運動学			担当講師	長谷川 聡・米田 彰		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	歩行の生理学的な理解と分析を行う事で病的歩行の理解を深めていく。 学習した内容を基礎に臨床実習、理学療法士として円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. 基本動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる 2. 基本動作のメカニズムについて説明できる 3. 基本動作の動作分析の目的と評価方法について説明できる 4. 動作分析に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる 5. 運動能力低下、動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 6. 起居移動動作能力低下の程度と関連要因を把握する評価が実施できる 7. 画像（動画）を用いた評価が実施できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	歩行とは
2	ランチョ・ロス・アミーゴ式分析、ロコモーター・パッセンジャー
3	ステップ・ストライド・歩隔・歩行速度・歩行率・モーメント
4	歩行周期・倒立振り理論
5	ロッカーファンクション・COM・BOS・COP・CPG
6	歩行の6因子決定論
7	歩行の評価バッテリー①
8	歩行の評価バッテリー②
9	歩行観察①
10	歩行観察②
11	歩行観察③
12	症例歩行分析①
13	症例歩行分析②
14	前半のまとめ①
15	前半のまとめ②
16	立ち上がりの動作分析①
17	立ち上がりの動作分析②
18	立ち上がりの動作分析③
19	立ち上がりの動作分析④
20	立ち上がりの動作分析⑤
21	立ち上がりの動作分析⑥
22	寝返りの動作分析①
23	寝返りの動作分析②
24	起き上がりの動作分析①

25	起き上がりの動作分析②
26	起き上がりの動作分析③
27	起き上がりの動作分析④
28	起き上がりの動作分析⑤
29	起き上がりの動作分析⑥
30	終講試験

評価方法	レポート課題、筆記試験等を加味し総合的に評価する
教科書	観察による歩行分析 医学書院 動作分析 臨床活用講座 バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践 メジカルビュー社
参考書	姿勢・動作・歩行分析 羊土社
備考	担当教員から指示がない限り、原則として実習に準ずる身だしなみ・服装で授業に臨むこと。 運動学からつながる授業となります。事前に運動学の復習をして理解を深めておいてください。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	理学療法評価スキル			担当講師	加藤 仁志・学科専任教員		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	40 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	理学療法士における養成教育では知識・技能・態度の習得が目標とされる。この内、技能・態度の教育は臨床実習を通して行うことが多い。学生の臨床能力を学内で客観的に捉えるために理学療法士用のOSCEの内容を用いて、臨床技能の向上を目指した授業を行う。						
到達目標	1. 理学療法士の心得を理解し、チームの一員として行動することができる。 2. 臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について説明できる。 3. 特に態度について理学療法場で活用することができる。 4. 理学療法士に必要な機能障害・能力低下に対する誘導・補助方法を実施することができる。 5. 対象者の自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 6. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 7. 人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる。 8. 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる。 9. 他者の意見を傾聴できる。 10. 理解した結論に基づいた行動ができる。 11. 医療の安全性を確保するための対応策について説明できる。 12. 感染対策について説明できる。 13. 医療現場における清潔・不潔の概念について説明できる。 14. 情報管理の必要性について説明できる。 15. 知り得た情報の発信、記録、保存に関して、情報漏洩などのリスク管理ができる。 16. 理学療法評価の目的、評価方法、評価実施前のスクリーニング検査について説明できる。 17. 理学療法の基本的評価技術（バイタルサイン、医療面接、機能形態計測、関節可動域測定、筋力測定、感覚検査）が実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、模擬患者練習（1）（講義）
2	模擬患者練習（2）（演習）
3	療法士面接（1）（講義）
4	療法士面接（2）（演習）
5	ROM-t（1）（講義）
6	ROM-t（2）（演習）
7	MMT（1）（講義）
8	MMT（2）（演習）
9	形態測定（1）（講義）
10	形態測定（2）（演習）
11	整形外科疾患別検査（1）（講義）
12	整形外科疾患別検査（2）（演習）
13	感覚検査、反射検査（1）（講義）
14	感覚検査、反射検査（2）（演習）
15	脳卒中の麻痺側運動機能評価（1）（講義）
16	脳卒中の麻痺側運動機能評価（2）（演習）
17	脳神経検査、運動失調検査（1）（講義）
18	脳神経検査、運動失調検査（2）（演習）

19	期末テスト（実技テスト）
20	期末テスト（実技テスト）
評価方法	授業参加度、意欲、態度、実技試験（OSCE）等を加味し総合的に評価をする。
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 第2版 コミュニケーションと介助・検査測定編 金原出版
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法臨床推論			担当講師	加藤 仁志		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	近年、理学療法士教育において問題解決能力の育成に主眼が置かれ、問題基盤型学習（PBL）の導入が行われている。また、臨床推論能力の開発が重要な教育目標となっている。この科目ではグループワークを中心に進め、理学療法士に必要な臨床推論能力の開発・向上を図る。						
到達目標	1. 得られた情報を統合し、客観的・批判的に整理して自身の考えを表現できる。 2. 理学療法評価の目的と評価方法について説明できる。 3. 理学療法評価実施前のスクリーニング検査について説明できる。 4. 理学療法評価を実施する時期について説明できる。 5. 理学療法評価に基づく治療計画立案までのプロセスが説明できる。 6. 理学療法実施に関わる情報の整理の仕方が説明でき、整理できる。 7. 理学療法の目標設定の仕方が説明できる。 8. 理学療法プログラムの立案の仕方が説明できる。 9. 診療ガイドラインについて説明できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	情報収集項目と収集方法の決定：講義（1）
3	情報収集項目と収集方法の決定：講義（2）
4	情報収集項目と収集方法の決定：グループディスカッション（1）
5	情報収集項目と収集方法の決定：グループディスカッション（2）
6	情報収集項目と収集方法の決定：グループディスカッション（3）
7	情報収集項目と収集方法の決定：グループディスカッション（4）
8	情報収集項目と収集方法の決定：発表準備（1）
9	情報収集項目と収集方法の決定：発表準備（2）
10	情報収集項目と収集方法の決定：発表（1）
11	情報収集項目と収集方法の決定：発表（2）
12	情報収集項目と収集方法の決定：発表（3）
13	情報収集項目と収集方法の決定：発表（4）
14	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（1）
15	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（2）
16	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（3）
17	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（4）
18	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（5）
19	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（6）
20	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（7）
21	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（8）
22	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：グループディスカッション（9）
23	統合と解釈、ゴール設定、問題点列举、プログラム立案：発表準備（1）

24	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表準備（2）
25	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表準備（3）
26	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表準備（4）
27	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表（1）
28	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表（2）
29	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表（3）
30	統合と解釈、ゴール設定、問題点列挙、プログラム立案：発表（4）
評価方法	出席・授業態度・発表等を加味し総合的に評価する。
教科書	基本編・ケースで学ぶ理学療法臨床思考 第2版
参考書	理学療法臨床診断学への志向 文光堂 その他・理学療法評価学・治療学に関する書籍全般
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	総合理学療法Ⅱ			担当講師	学科専任教員		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	理学療法評価を中心に実施する評価実習にて経験したことを基に、病理学的・人間発達の・臨床心理学視点および内科学疾患・整形外科疾患・老年期疾患・精神医学的疾患と関連付けて、理学療法の知識・技術を整理・統合する。						
到達目標	1. 病理学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 2. 内科学疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 3. 整形外科疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 4. 人間発達の視点と関連付けて、理学療法を考えられる。 5. 老年期疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 6. 精神医学的疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 7. 臨床心理学的視点と関連付けて、理学療法を考えられる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	病理学的視点から考える理学療法①（講義）
3	病理学的視点から考える理学療法②（演習）
4	内科学疾患理学療法①（講義）
5	内科学疾患理学療法②（演習）
6	整形外科疾患理学療法①（講義）
7	整形外科疾患理学療法②（演習）
8	人間発達学的視点から考える理学療法①（講義）
9	人間発達学的視点から考える理学療法②（演習）
10	老年期疾患理学療法①（講義）
11	老年期疾患理学療法②（演習）
12	精神医学疾患理学療法（講義・演習）
13	臨床心理学的視点から考える理学療法（講義・演習）
14	期末試験
15	期末試験

評価方法	筆記試験にて評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	日常生活活動論			担当講師	山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1 年次	学 期	前期
概 要	日常生活活動（ADL）は人間が生活するために基礎的な一連の身体動作群をいう。この科目では生活行為・基本動作を学習し、理学療法士としての評価法・指導法等基礎的な技術を獲得することを目的とする。						
到達目標	1. ICFとその各項目について説明することができる。 2. 福祉用具の種類、適用について説明できる。 3. 車いすの種類、適用について説明でき、調整できる。 4. セルフケアについて説明できる。 5. 基本動作の種類（寝返り、起き上がり、立ち上がり、歩行）について説明できる。 6. セルフケア・起居移動動作能力の程度と関連要因を把握する評価ができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、ADLの概念
2	ADLの評価①
3	ADLの評価②
4	福祉用具について
5	福祉用具 歩行補助具の種類と特性
6	歩行補助具使用の実際
7	福祉用具 車椅子の種類と特性
8	車いす使用の実際①
9	車いす使用の実際②
10	セルフケアと福祉用具①
11	セルフケアと福祉用具②
12	基本動作演習（基本動作の基礎）①
13	基本動作演習（基本動作の基礎）②
14	基本動作演習（立ち上がり）②
15	基本動作演習（立ち上がり）②
16	基本動作演習（寝返り）①
17	基本動作演習（寝返り）②
18	基本動作演習（起き上がり）①
19	基本動作演習（起き上がり）②
20	基本動作演習（移乗・歩行）①
21	ICF①
22	ICF②
23	実技試験
評価方法	レポート課題、実技試験等を加味し総合的に評価する

教科書	日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院
参考書	
備 考	※臨床運動学と関連する部分があります。 ※課題を通してさらに学習を深めてください。くれぐれも提出期限・体裁などには注意すること。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	運動療法技術論			担当講師	長谷川 聡・高倉 秀暢		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	1年次	学 期	後期
概 要	理学療法の分野では、様々な疾患に対して運動療法を施行する。この科目では、運動療法の基礎、運動療法技術を学習し疾患別に対する運動療法が行えることを目的とする。						
到達目標	1. 活動（運動）を実行する上で必要となる姿勢制御・運動制御の理論的背景について説明できる。 2. 随意運動の制御システムについて説明できる。 3. 運動学習理論について説明できる。 4. 運動学種の過程とそのモデルについて説明できる。 5. 活動（運動）を継続する上で必要となる運動耐用能について説明できる。 6. 運動による呼吸の変化について説明できる。 7. 運動による循環の変化について説明できる。 8. 運動による代謝の変化について説明できる。 9. 廃用症候群の病因について説明できる。 10. 廃用症候群の分類について説明できる。 11. 代表的な廃用症候群（褥瘡、関節拘縮、筋萎縮など）の病態について説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	運動とは？ 運動の仕組み						
2	筋収縮様式による分類						
3	関節の構造と機能						
4	運動様式と包内運動						
5	関節と筋収縮						
6	伸張反射とは						
7	随意運動・運動制御						
8	筋収縮と滑走説						
9	興奮収縮連関						
10	張力からみた筋収縮特性						
11	運動と呼吸						
12	呼吸器疾患の運動療法の実際						
13	運動と循環						
14	循環器疾患について						
15	エネルギー代謝						
16	筋力発生・筋力低下、てこ、長さ と 張力						
17	筋力増強運動の原理と原則						
18	1RM、漸増抵抗運動、収縮様式別筋力増強						
19	筋持久力を規定する要因、OCCとCKC						
20	OCCとOKCの運動の実際						
21	持久力とは、エネルギー供給系						

22	フィックの原理、スターリングの法則、カルボーネンの式、最大酸素摂取量
23	LT, VT, AT、ボルグスケール
24	6分間歩行テスト
25	協調性運動、失調の運動療法
26	痛みに対する運動療法、急性痛と慢性痛
27	筋肉痛と関節痛、痛みに対する運動療法
28	まとめ
29	終講試験（実技）
30	終講試験（筆記）

評価方法	筆記・実技試験に基づいて学修成果を判定する。
教科書	「標準理学療法学 運動療法学 総論」 第4版 医学書院
参考書	なし
備 考	※担当教員から指示がない限り、原則として実習に準ずる身だしなみ・服装で授業に臨むこと。 ※運動学からつながる授業となります。事前に運動学の復習をして理解を深めておいて下さい。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	物理療法学			担当講師	山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	理学療法臨床現場において現在多くの治療場面で用いられている物理療法の有用性を理解し、いつどのように用いると最も効果的で安全に適用できるかについて学ぶ。また、リハビリテーション治療計画に適切な物理療法と種々の治療的要素を統合し、信頼性の高い根拠に基づいた物理療法を対象者へ適用することを学ぶ。						
到達目標	1. 物理療法の種類を説明できる。 2. 物理療法の適応・禁忌について説明できる。 3. 物理療法の実施方法・保守点検・安全管理について説明できる。 4. 物理療法の実際に使用する。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、物理療法総論
2	温熱療法（ホットパック・パラフィン浴）
3	温熱療法（電磁波）
4	超音波療法
5	寒冷療法
6	電気刺激療法①
7	電気刺激療法②
8	水治療法
9	光線療法
10	牽引療法、振動刺激療法、衝撃波療法
11	物理療法機器の操作・管理・実施方法①（総論）
12	物理療法機器の操作・管理・実施方法②（総論）
13	物理療法機器の操作・管理・実施方法③（温熱療法①）
14	物理療法機器の操作・管理・実施方法④（温熱療法②、超音波療法）
15	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑤（寒冷療法、水治療法）
16	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑥（電気刺激療法）
17	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑦（牽引療法）
18	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑧（臨床応用）
19	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑨（臨床応用）
20	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑩（臨床応用）
21	物理療法機器の操作・管理・実施方法⑪（臨床応用）
22	実技試験
23	筆記試験

評価方法	授業参加度、筆記試験・実技試験を加味し総合的に評価する
------	-----------------------------

教科書	Cross link 理学療法学テキスト 物理療法学 メジカルビュー社
参考書	
備 考	※グループ学習を通じて演習を行います. ※しっかりと自己学習（予習・復習）してきて下さい.

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	義肢学			担当講師	井上 和久		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	本講義では、切断者の身体状況に適した義肢のあり方を学ぶとともに、切断者がその義肢を有効に操作できるよう、筋力トレーニング、断端管理などを学習する。						
到達目標	1. 切断、義肢の概念について概説できる。 2. 各種義肢の基本的構造と概念について説明できる。 3. 義足歩行の特徴を理解し、異常現象を把握することができる。 4. 上記に対して義肢の適切な補正を図り、治療計画に結ぶつけることができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	義肢学総論（1）
2	義肢学総論（2）
3	義肢学総論と実際（1）
4	義肢学総論と実際（2）
5	義肢学各論（1）
6	義肢学各論（2）：評価
7	義肢学各論（3）：分類、装着法、ソケット、継手
8	義肢学各論（4）：分類、装着法、ソケット、継手
9	義肢学各論（5）：股・膝・足別義足
10	小テスト
11	義肢学各論（6）：ベンチ、スタティック、ダイナミックアライメント
12	義肢学各論（7）：ベンチ、スタティック、ダイナミックアライメント
13	義肢学各論（8）：義足歩行、義手
14	義肢学各論（9）：義足歩行、義手
15	義肢学各論（10）：ベンチアライメント、AK等）

評価方法	受講態度、遅刻・欠席、定期試験等を加味した上、総合的に評価をする。
教科書	義肢学 第2版 中山書店
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	装具学			担当講師	井上 和久		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	本科目では、四肢・体幹の機能障害の軽減を目的に使用される装具の基本的知識、適応と理論および適合判定などについて学習することを目的とする。						
到達目標	1. 装具の概念について概説できる。 2. 切断、義肢の概念について概説できる。 3. 各種装具の基本的構造と概念について説明できる。 4. 装具歩行の特徴を理解し、異常現象を把握することができる。 5. 上記に対して装具の適切な補正を図り、治療計画に結ぶつけることができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	装具学総論（1）						
2	装具学総論（2）						
3	股・膝・免荷装具						
4	足装具						
5	脳卒中片麻痺の装具（1）						
6	脳卒中片麻痺の装具（2）						
7	対麻痺の下肢装具						
8	下肢装具の適合評価						
9	小テスト						
10	体幹装具						
11	疾患別装具（側彎，先股脱，ペルテス等）						
12	上肢装具（1）						
13	上肢装具（2）						
14	装具採型～陰性・陽性モデル～（1）						
15	装具採型～陰性・陽性モデル～（2）						
評価方法	受講態度、遅刻・欠席、定期試験等を加味した上、総合的に評価をする。						
教科書	装具学 第2版 中山書店						
参考書	なし						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	循環器・呼吸器疾患理学療法			担当講師	豊田 和典		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	循環器・呼吸器疾患の基礎知識・評価を学習し、循環器・呼吸器疾患の理学療法を習得する。						
到達目標	1. 循環器・呼吸器疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 循環器・呼吸器疾患理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 循環器・呼吸器疾患理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	呼吸器・循環器の解剖
2	血ガス分析（1）
3	血ガス分析（2）
4	心臓リハ概論
5	X-Pのみかた
6	急性期心リハ
7	慢性期心リハ
8	アセスメント（1）
9	アセスメント（2）
10	人工呼吸器の理学療法（1）
11	人工呼吸器の理学療法（2）
12	人工呼吸器の理学療法（3）
13	呼吸理学療法（1）
14	呼吸理学療法（2）
15	呼吸理学療法（3）

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	内部障害理学療法			担当講師	鈴木 康平		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	前期
概 要	糖尿病、腎疾患、腫瘍の基礎知識・評価を学習し、疾患別の理学療法を学修する。						
到達目標	1. 糖尿病の疫学、予後、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 2. 糖尿病にかかる理学療法について説明でき、実施できる。 3. 腫瘍の病因、分類、グレード、ステージ、浸潤、転移、自立性増殖について説明できる。 4. 悪液質について説明できる。 5. がん関連障害の疫学、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 6. がん関連障害の一般的疾患（肺がん、消化器がん、乳がん、血液がん、骨軟部腫瘍、脳腫瘍、頭頸部がん、その他腫瘍）について説明できる。 7. がんのリハビリテーションにおける理学療法士の役割および、理学療法について説明できる。 8. 腎疾患の疫学、病因、病態、症候、検査（画像・生理検査を含む）、診断、治療、リハビリテーション医療について説明できる。 9. 一般的な腎疾患（腎不全）について説明できる。 10. 腎疾患にかかる理学療法について説明できる。 11. 行動変容の段階について説明できる。 12. 個別指導、集団指導のポイントについて説明できる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	ガイダンス、内部障害概論（1）						
2	身体所見のみかた（1）						
3	身体所見のみかた（2）						
4	運動負荷試験と運動処方（1）						
5	運動負荷試験と運動処方（2）						
6	代謝疾患（1）						
7	代謝疾患（2）						
8	腎疾患（1）						
9	腎疾患（2）						
10	がん（1）						
11	がん（2）						
12	患者教育						
13	症例検討						
14	症例検討・まとめ						
15	筆記試験						
評価方法	筆記試験に基づいて学修成果を判定する。						
教科書	PT・OTビジュアルテキスト 内部障害理学療法学 第1版 羊土社						
参考書							

備 考	
-----	--

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	脊髄損傷理学療法			担当講師	水上 昌文		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	脊髄損傷理学療法の基礎知識・評価を学習し、脊髄損傷理学療法を習得する。						
到達目標	1. 各疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 疾患別理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 疾患別理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	評価（ASIA、Zancolli、他）
2	疫学
3	神経学的回復
4	急性期の理学療法（呼吸、排痰、ポジショニング）
5	完全麻痺に対する回復期の理学療法、ADL（1）
6	完全麻痺に対する回復期の理学療法、ADL（2）
7	完全麻痺に対する回復期のPT・ADL（座位獲得、プッシュアップ、起居移動移乗動作獲得）（1）
8	完全麻痺に対する回復期のPT・ADL（座位獲得、プッシュアップ、起居移動移乗動作獲得）（2）
9	不全麻痺のPT（可動性、痙性、筋力強化）、歩行（1）
10	不全麻痺のPT（可動性、痙性、筋力強化）、歩行（2）
11	新たな歩行トレーニング（BWSTT、ロボティクス）（1）
12	新たな歩行トレーニング（BWSTT、ロボティクス）（2）
13	完全麻痺の歩行再建、合併症、心理（1）
14	完全麻痺の歩行再建、合併症、心理（2）
15	排泄、性機能障害、自律神経障害と理学療法

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	小児理学療法			担当講師	山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	専門分野の基礎知識・評価を学習し、疾患別の理学療法を習得する。						
到達目標	1. 小児の障害を引き起こす一般的な疾患の疫学、病因、症候、予後について説明できる。 2. 発達にかかわる検査・評価について説明できる。 3. 発達にかかわる理学療法が説明・実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、総論
2	発達検査・評価①
3	発達検査・評価②
4	脳性麻痺 総論
5	脳性麻痺 各論①
6	脳性麻痺 各論②
7	脳性麻痺 各論③
8	先天性神経筋疾患①
9	先天性神経筋疾患②
10	二分脊椎、骨系統疾患
11	染色体異常
12	低出生体重児・ハイリスク児
13	重症心身障害児・者
14	運動発達遅滞、発達協調運動障害、中途障害児
15	筆記試験

評価方法	筆記試験にて評価する
教科書	小児理学療法学テキスト 改訂第3版 南江堂
参考書	イラストでわかる小児理学療法 医歯薬出版株式会社
備 考	※基礎運動学Ⅱ、人間発達学、小児科学と関わります。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	運動器・スポーツ理学療法			担当講師	芋生 祥之・武井 隼児・飛田 広大・ 吉田 昂平・鈴木 彩乃		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	整形外科学・スポーツ理学療法の基礎知識・評価を学習し、整形外科学・スポーツ理学療法を習得する。						
到達目標	1. 整形外科学・スポーツ疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 整形外科学・スポーツ理学療法の評価が列举でき、評価することができる。 3. 整形外科学・スポーツ理学療法の治療プログラムが列举でき、実施することができる。 4. スポーツに介入するPT業務について概説できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	病態生理学
2	薬物療法
3	臨床運動学
4	臨床解剖学
5	評価学（上肢）
6	評価学（下肢）
7	臨床推論
8	心理療法
9	スポーツパフォーマンス
10	体力トレーニング
11	コンディショニング
12	物理療法学
13	運動療法学
14	ACL患者の術後理学療法（1）
15	ACL患者の術後理学療法（2）

評価方法	出席、筆記試験（教科外）等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	「理学療法ハンドブック」 改訂第4版 協同医書出版社
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	脳卒中理学療法			担当講師	小島 功		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	脳卒中患者について、理学療法に必要な基礎的な知識と一般的な運動療法の概念およびADLについて学ぶ。また、グループワークを通して脳卒中理学療法に必要な基礎知識を学ぶ						
到達目標	①脳血管障害急性期・回復期のリスク管理（訓練可否基準）が理解できる。②合併症嚥下障害と誤嚥対策、高次脳機能障害が理解できる。③脳卒中片麻痺の評価が実施できる。④対象疾患の運動療法が実施できる。⑤対象疾患のADLを理解できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	脳卒中の分類
2	実技①プレーシング
3	急性期・回復期のリスク管理
4	実技②頭部コントロール実技③key point of control
5	早期理学療法・歩行分析・グループワーク
6	実技④ポジショニング⑤起き上がり
7	脳卒中片麻痺の評価
8	実技⑥座位から立位・⑦座位バランス
9	実技⑧肩・上肢のコントロール⑨足部の治療
10	実技⑩歩行
11	高次脳機能障害
12	脳画像のみかた
13	認知運動療法
14	認知運動療法
15	筆記試験

評価方法	筆記試験にて学修成果を判定する。
教科書	脳卒中理学療法の理論と技術 第3版 MEDICAL VIEW
参考書	病気が見える（脳・神経）
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	神経疾患理学療法			担当講師	藤田 義隆・伊藤 剛		
分 野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	神経疾患の基礎知識・評価を学習し、神経疾患理学療法を習得する。						
到達目標	1. 神経疾患の病態を理解し、リスク管理ができる。 2. 神経疾患理学療法の評価が列挙でき、評価することができる。 3. 神経疾患理学療法の治療プログラムが列挙でき、実施することができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	パーキンソン病の理学療法（１）
2	パーキンソン病の理学療法（２）
3	パーキンソン病の理学療法（実技）（１）
4	パーキンソン病の理学療法（実技）（２）
5	多発性硬化症の理学療法（１）
6	多発性硬化症の理学療法（２）
7	ギラン・バレー症候群の理学療法
8	脊髄小脳変性症の理学療法（１）
9	脊髄小脳変性症の理学療法（２）
10	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（１）
11	筋萎縮性側索硬化症の理学療法（２）
12	ミオパチーの理学療法（１）
13	ミオパチーの理学療法（２）
14	難病の制度、認知症について（１）
15	難病の制度、認知症について（２）

評価方法	出席、筆記試験等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	「理学療法ハンドブック」 改訂第4版 協同医書出版社
備 考	動きやすい服装で実技に臨むこと。（ジャージが望ましい。）

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	特殊理学療法			担当講師	佐用 寛文・鳥毛 正弘・飛田 広大・ 岩瀬 豊・信岡 尚子・稲川 良・武藤 久司・ 長谷川 聡・鈴木 康平・山神 翔太		
分 野	専門基礎	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	近年、理学療法は非常に多岐にわたる分野で求められている。そのような社会情勢の中、社会的ニーズに応えられるような理学療法士になるべく、様々な分野の理学療法についてオムニバス形式で学ぶ。						
到達目標	以下の項目に関する理学療法士の役割および、理学療法について説明できる ・ウィメンズヘルス、メンズヘルス ・精神疾患（統合失調症、気分障害（うつ病）、ストレス関連障害） ・視覚障害を合併する歩行・生活指導 ・前庭性めまい ・摂食嚥下障害 ・産科、婦人科領域の機能障害 ・産業保健および、産業衛生概念 ・学校保健および、特別支援教育（通級指導を含む） ・障がい者スポーツ支援 ・喀痰等の吸引						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス
2	ウィメンズヘルス・メンズヘルスにおける理学療法
3	産科・婦人科領域の機能障害に対する理学療法
4	精神疾患（統合失調症、気分障害（うつ病）、ストレス関連障害）①
5	精神疾患（統合失調症、気分障害（うつ病）、ストレス関連障害）②
6	視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法①
7	視覚障害を合併する歩行・生活指導における理学療法②
8	前庭性めまいに対する理学療法①
9	前庭性めまいに対する理学療法②
10	産業保健および、産業衛生概念における理学療法①
11	産業保健および、産業衛生概念における理学療法②
12	学校保健および、特別支援教育（通級指導を含む）における理学療法①
13	学校保健および、特別支援教育（通級指導を含む）における理学療法②
14	摂食嚥下障害に対する理学療法①
15	摂食嚥下障害に対する理学療法②
16	障がい者スポーツ支援における理学療法①
17	障がい者スポーツ支援における理学療法②
18	喀痰等の吸引（1）喀痰等の吸引について
19	喀痰等の吸引（2）喀痰等の吸引の実際
20	脊柱彎曲運動療法①
21	脊柱彎曲運動療法②

22	脊柱彎曲運動療法③
23	脊柱彎曲運動療法④
評価方法	出席、筆記試験（教科外）等を加味し総合的に評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法臨床スキルⅠ			担当講師	加藤 仁志・米田 彰・長谷川 聡・ 鈴木 康平・山神 翔太		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	38 時間	学 年	2 年次	学 期	後期
概 要	理学療法士における養成教育では知識・技能・態度の習得が目標とされる。この内、技能・態度の教育は臨床実習を通して行うことが多い。学生の臨床能力を学内で客観的に捉えるために理学療法士用のOSCEの内容を用いて、臨床技能の向上を目指した授業を行う。						
到達目標	1. 理学療法士の心得を理解し、チームの一員として行動することができる。 2. 臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について説明できる。 3. 特に態度について理学療法場面で活用することができる。 4. 理学療法士に必要な機能障害・能力低下に対する誘導・補助方法を実施することができる。 5. 対象者の自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 6. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 7. 人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる。 8. 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる。 9. 他者の意見を傾聴できる。 10. 理解した結論に基づいた行動ができる。						
回	授 業 計 画 ・ 内 容						
1	オリエンテーション						
2	関節可動域運動・振り子運動①（講義）						
3	関節可動域運動・振り子運動②（演習）						
4	筋力増強運動①（講義）						
5	筋力増強運動②（演習）						
6	部分荷重運動①（講義）						
7	部分荷重運動②（演習）						
8	起立・着座①（講義）						
9	起立・着座②（演習）						
10	起き上がり①（講義）						
11	起き上がり②（演習）						
12	移乗①（講義）						
13	移乗②（演習）						
14	歩行①（講義）						
15	歩行②（演習）						
16	期末テスト（実技テスト）						
17	期末テスト（実技テスト）						
18	期末テスト（実技テスト）						
19	期末テスト（実技テスト）						
評価方法	授業参加度、意欲、態度、実技試験（OSCE）等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版 適宜、配付資料あり						

参考書	
備 考	臨床実習に準ずる身なりで臨むこと

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	理学療法臨床スキルⅡ			担当講師	米田 彰・山神 翔太・鈴木 康平・加藤 仁志		
分野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	60 時間	学 年	3年次	学 期	前期
概 要	理学療法士における養成教育では知識・技能・態度の習得が目標とされる。この内、技能・態度の教育は臨床実習を通して行うことが多い。学生の臨床知識・技能の向上と、直後に実施される総合臨床実習に向けて、臨床視点の理解向上を目指す。						
到達目標	1. 理学療法士の心得を理解し、チームの一員として行動することができる。 2. 臨床上必要な最低限の知識・技術・態度について説明できる。 3. 特に態度について理学療法場面で活用することができる。 4. 理学療法士に必要な面接、機能障害・能力低下に対する誘導・補助方法を実施することができる。 5. 対象者の自己決定権の意義を踏まえながら対応できる。 6. インフォームド・コンセントの意義と必要性を理解できる。 7. 人々の相互関係を成立させるコミュニケーション能力について説明できる。 8. 良好な人間関係を作る条件や要因を考察できる。 9. 他者の意見を傾聴できる。 10. 理解した結論に基づいた行動ができる。 11. 総合臨床実習に向けて、臨床技能の向上を図ることができる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	ガイダンス（触れ方，動かし方，ポジションなど）
2	膝関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
3	膝関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
4	膝関節周囲に対する理学療法③（講義・演習）
5	股関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
6	股関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
7	足関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
8	足関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
9	股・膝・足関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
10	股・膝・足関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
11	股・膝・足関節周囲に対する理学療法③（講義・演習）
12	股・膝・足関節周囲に対する理学療法④（講義・演習）
13	肩関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
14	肩関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
15	肩甲骨周囲に対する理学療法①（講義・演習）
16	肩甲骨周囲に対する理学療法②（講義・演習）
17	肘・前腕・手関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
18	肘・前腕・手関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
19	肩・肘・手関節周囲に対する理学療法①（講義・演習）
20	肩・肘・手関節周囲に対する理学療法②（講義・演習）
21	肩・肘・手関節周囲に対する理学療法③（講義・演習）
22	肩・肘・手関節周囲に対する理学療法④（講義・演習）

23	体幹に対する理学療法①（講義・演習）
24	体幹に対する理学療法②（講義・演習）
25	全体のまとめ①（演習）
26	全体のまとめ②（演習）
27	全体のまとめ③（演習）
28	全体のまとめ④（演習）
29	全体のまとめ⑤（演習）
30	全体のまとめ⑥（演習）
評価方法	提出物（60％）授業参加度・意欲・態度（40％）で評価をする。
教科書	なし
参考書	PT・OTのための臨床技能とOSCE 機能障害・能力低下への介入編 金原出版 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 改訂第2版 金原出版 理学療法評価学 改訂第6版 金原出版 新・徒手筋力検査法 原著第10版 協同医書出版社 プロメテウス解剖学コアアトラス 第3版
備 考	演習は臨床実習に準ずる身なりで臨むこと。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	総合理学療法Ⅲ			担当講師	稲川 良・森 裕子・阿部 国和・ 米田 彰・長谷川 聡・鈴木 康平・ 加藤 仁志・山神 翔太		
分 野	専門	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	4 単位	時 間	120 時間	学 年	3年次	学 期	後期
概 要	治療介入を中心に実施する総合臨床実習Ⅰ・Ⅱにて経験した基に、脳血管疾患・変性疾患・運動器疾患・神経筋疾患・内科疾患・がん関連疾患・呼吸器疾患・循環器疾患・小児疾患・脊髄損傷・義肢適応疾患・装具適当疾患・精神疾患・疼痛・摂食・嚥下障害と関連付けて、理学療法の知識・技術を整理・統合する。						
到達目標	1. 脳血管疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 2. 変性疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 3. 運動器疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 4. 神経筋疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 5. 内科疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 6. がん関連疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 7. 呼吸器疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 8. 循環器疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 9. 小児疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 10. 脊髄損傷と関連付けて、理学療法を考えられる。 11. 義肢適応疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 12. 装具適応疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 13. 精神疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 14. 疼痛が出現する疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。 15. 摂食・嚥下障害が出現する疾患と関連付けて、理学療法を考えられる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、脳血管疾患・変性疾患理学療法①（講義）
2	脳血管疾患・変性疾患理学療法②（講義）
3	脳血管疾患・変性疾患理学療法③（演習）
4	脳血管疾患・変性疾患理学療法④（演習）
5	脳血管疾患・変性疾患理学療法⑤（演習）
6	運動器疾患理学療法①（講義）
7	運動器疾患理学療法②（講義）
8	運動器疾患理学療法③（演習）
9	運動器疾患理学療法④（演習）
10	運動器疾患理学療法⑤（演習）
11	神経筋疾患理学療法①（講義）
12	神経筋疾患理学療法②（講義）
13	神経筋疾患理学療法③（演習）
14	神経筋疾患理学療法④（演習）
15	内科疾患理学療法①（講義）
16	内科疾患理学療法②（講義）
17	内科疾患理学療法③（演習）
18	内科疾患理学療法④（演習）
19	がん関連疾患理学療法①（講義）

20	がん関連疾患理学療法②（講義）
21	がん関連疾患理学療法③（演習）
22	がん関連疾患理学療法④（演習）
23	呼吸器疾患理学療法①（講義）
24	呼吸器疾患理学療法②（講義）
25	呼吸器疾患理学療法③（演習）
26	呼吸器疾患理学療法④（演習）
27	循環器疾患理学療法①（講義）
28	循環器疾患理学療法②（講義）
29	循環器疾患理学療法③（演習）
30	循環器疾患理学療法④（演習）
31	小児疾患理学療法①（講義）
32	小児疾患理学療法②（講義）
33	小児疾患理学療法③（演習）
34	小児疾患理学療法④（演習）
35	脊髄損傷理学療法①（講義）
36	脊髄損傷理学療法②（講義）
37	脊髄損傷理学療法③（演習）
38	脊髄損傷理学療法④（演習）
39	義肢適応疾患理学療法①（講義）
40	義肢適応疾患理学療法②（講義）
41	義肢適応疾患理学療法③（演習）
42	義肢適応疾患理学療法④（演習）
43	装具適応疾患理学療法①（講義）
44	装具適応疾患理学療法②（講義）
45	装具適応疾患理学療法③（演習）
46	装具適応疾患理学療法④（演習）
47	精神疾患理学療法①（講義）
48	精神疾患理学療法②（講義）
49	精神疾患理学療法③（演習）
50	精神疾患理学療法④（演習）
51	疼痛に対する理学療法（物理療法）①（講義）
52	疼痛に対する理学療法（物理療法）②（講義）
53	疼痛に対する理学療法（物理療法）③（演習）
54	疼痛に対する理学療法（物理療法）④（演習）
55	摂食・嚥下障害に対する理学療法①（講義）
56	摂食・嚥下障害に対する理学療法②（演習）
57	期末試験

58	期末試験
59	期末試験
60	期末試験

評価方法	筆記試験にて評価をする。
教科書	配付資料
参考書	なし
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	生活環境論			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	1 年次	学 期	後期
概 要	病態運動、生活障害を理解する。また疾患別によるADLの実際、環境整備を含め学習する。そして、学習した内容を基礎に臨床実習、理学療法士として円滑に進められることを目的とする。						
到達目標	1. バリアフリーとユニバーサルデザインについて概念と関係する法制度について説明できる。 2. 生活環境について説明できる。 3. 生活環境の課題を把握する評価を実施できる。 3. 生活にかかわる福祉用具（リフト等）について説明できる。 3. ポジショニング・シーティングのポイントを説明し、適切な姿勢を保持させることができる。 4. 臥床姿勢・座位姿勢のチェックが実施できる。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション、生活環境総論
2	生活環境の評価・整備のプロセス
3	住環境としての住宅と住宅改修①
4	住環境としての住宅と住宅改修②
5	住環境としての住宅と住宅改修③
6	住環境としての住宅と住宅改修④
7	生活にかかわる法制度
8	生活にかかわる法制度
9	生活にかかわるリハビリテーション機器①（移乗・移動支援）
10	生活にかかわるリハビリテーション機器②（姿勢管理）
11	生活環境のバリアフリー①
12	生活環境のバリアフリー②
13	公共交通機関のバリアフリー①
14	公共交通機関のバリアフリー②
15	公共交通機関のバリアフリー③

評価方法	課題・発表を加味し総合的に評価をする
教科書	標準理学療法 専門分野 日常生活活動学・生活環境学 第5版 医学書院
参考書	
備 考	※地域理学療法論へつながる科目です。 ※課題を通してしっかりと理解を深めてください。提出期限・体裁にはくれぐれも注意すること。

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	地域理学療法論			担当講師	鈴木 康平		
分野	専門	授業方法	講義	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	2 単位	時 間	46 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	社会のニーズとして地域における保健・福祉の分野における理学療法士の現状と役割を理解し、学習する。 高齢者・障害者の地域における生活を支援していくために必要な知識や技術を習得する。						
到達目標	1. 地域理学療法における理学療法士の役割について説明できる 2. 地域における理学療法について説明できる 3. 入所・通所施設における理学療法について説明できる 4. 訪問における理学療法について説明できる 5. 地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割について説明できる 6. 地域における多職種連携について説明できる 7. 大規模災害時における活動支援の概要について説明できる 8. 災害時における理学療法士の役割について説明できる 9. 国際支援における理学療法士の役割について説明できる 10. 国際支援に関わる基盤について説明できる						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション
2	地域理学療法論概論
3	地域理学療法論概論
4	介護保険制度
5	介護保険制度
6	バリアフリーについて
7	バリアフリーについて
8	周辺環境調査
9	周辺環境調査
10	周辺環境調査グループ発表
11	周辺環境調査グループ発表
12	障害者福祉
13	障害者福祉
14	障害者スポーツ
15	障害者スポーツ
16	障害者スポーツグループ発表
17	障害者スポーツグループ発表
18	地域包括ケアシステム
19	症例検討
20	症例検討
21	国際支援における理学療法
22	災害時の理学療法

23	まとめ
評価方法	出席、発表、レポート等を加味し総合的に評価する
教科書	ビジュアルレクチャー 地域理学療法学 第3版 医歯薬出版
参考書	地域理学療法学 医学書院
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目			☒
科目名	介護予防と自立支援			担当講師	武藤 敬正		
分野	専門基礎	授業方法	講義・演習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	30 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	今日の高齢化社会の進行に合わせた医療・保健・福祉の現状、これからの動向を理解し、介護予防と自立支援についてを学習する。						
到達目標	介護予防における理学療法士の役割を理解し、理学療法士として介護予防と自立支援が理解できる。グループワークを通して健康増進事業の理解を含める。						

回	授 業 計 画 ・ 内 容
1	オリエンテーション・自立支援概論
2	自立支援についてグループワーク①
3	介護予防概論 総合事業について
4	介護予防についてグループワーク①
5	講義1-4の振り返り・自立支援各論
6	自立支援についてグループワーク②
7	介護予防各論 フレイル・サルコペニア
8	介護予防についてグループワーク②
9	講義5-8の振り返り・介護予防各論 認知症
10	介護予防についてグループワーク③
11	介護予防各論 脳血管疾患
12	介護予防についてグループワーク④
13	講義9-12の振り返り・介護予防各論 各市町村の取り組み
14	介護予防についてグループワーク⑤
15	介護予防についてグループワーク⑥

評価方法	加点方式にて評価 最高100点 授業中の発言・質問、発表等、レポートが加点項目
教科書	予防理学療法学（15レクチャーシリーズ理学療法テキスト）、自立支援のケアとリハビリ
参考書	
備 考	

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	見学実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1単位	時間	45時間	学年	1年次	学期	前期
概要	学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野の科目の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。 本実習では、臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施することで、理学療法業務をイメージする。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「理学療法士の役割と責任」について理解し説明することができる。 ・「理学療法の対象者との関係性構築」について理解し説明することができる。 ・「理学療法の一連の流れ」を見学することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を見学することができる。 ・「多職種連携の展開」について見学することができる。						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
45	40時間の実習施設内での実習と、5時間の実習時間外学修で構成される。						
評価方法	意欲、態度、課題等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	見学実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1単位	時間	45時間	学年	1年次	学期	後期
概要	学内で学んだ基礎分野、専門基礎分野、専門分野の科目の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。 本実習では、臨床での理学療法士の患者への対応等について見学・模倣・実施することで、理学療法業務をイメージする。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「理学療法士の役割と責任」について理解し説明することができる。 ・「理学療法の対象者との関係性構築」について理解し説明することができる。 ・「理学療法の一連の流れ」を理解することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解することができ、その一部を模倣することができる。 ・「多職種連携の展開」について理解することができる。						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
45	40時間の実習施設内での実習と、5時間の実習時間外学修で構成される。						
評価方法	意欲、態度、課題等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	地域理学療法実習			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	1 単位	時 間	45 時間	学 年	2年次	学 期	前期
概 要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。本実習では、通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける理学療法業務を見学・模倣・実施する。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「地域包括ケアシステムにおける理学療法士の役割」を理解し説明することができる。 ・「地域包括ケアシステムにおける関連専門職の役割」を理解し説明することができる。 ・「ケアプランの立案過程」を理解し説明することができる。 ・「通所リハビリテーション・訪問リハビリテーション利用者に対する理学療法」を理解し説明することができ、その一部を模倣することができる。 ・「通所リハビリテーション・訪問リハビリテーションにおける多職種連携の展開」について理解し説明することができる。						
jikann	授 業 計 画 ・ 内 容						
45	40時間の実習施設内での実習と、5時間の実習時間外学修で構成される。						
評価方法	意欲、態度、課題等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	評価実習			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	3 単位	時 間	135 時間	学 年	2年次	学 期	後期
概 要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。本実習では、患者の状態等に関する評価について、理学療法業務を見学・模倣・実施する。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「理学療法士の役割と責任」について理解し説明することができる。 ・「理学療法の対象者との関係性構築について理解し説明することができ、その一部を模倣・実施することができる。 ・「理学療法の一連の流れ」を理解し説明することができ、その一部を模倣することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅰ」の内容を模倣・実施することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅱ・水準Ⅲ」の内容を見学することができる。 ・「多職種連携の展開」について理解し説明することができる。						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
135	120時間の実習施設内での実習と15時間の実習時間外学修・臨床実習前後の評価で構成される。臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	意欲、態度、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備 考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	総合臨床実習Ⅰ			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	7単位	時間	315時間	学年	3年次	学期	前期
概要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。本実習では、患者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定について、理学療法業務全般を見学・模倣・実施する。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「理学療法士の役割と責任」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。 ・「理学療法の対象者との関係性構築」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。 ・「理学療法の一連の流れ」を理解し説明することができ、その一部を模倣・実施することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅰ・水準Ⅱ」の内容を模倣・実施することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅲ」の内容を見学することができる。 ・「多職種連携の展開」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
315	280時間の実習施設内での実習と35時間の実習時間外学修・臨床実習前後の評価で構成される。臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	授業参加度、意欲、態度、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							

2023年度 講義要項（授業計画）

				実務経験のある教員等による授業科目		☒	
科目名	総合臨床実習Ⅱ			担当講師	学科専任教員・臨床実習指導者		
分野	専門	授業方法	実習	実務経験	理学療法士としての実務経験		
単位数	7単位	時間	315時間	学年	3年次	学期	後期
概要	学内で学んだ理学療法専門科目等の知識・技術を基盤に、臨床教育者（Clinical Educator：CE）の指導のもとで、理学療法評価、理学療法プログラムの立案、治療を見学・模倣・実施する。本実習では、患者の障害像の把握、治療目標および治療計画の立案、治療実践ならびに治療効果判定について、理学療法業務全般を見学・模倣・実施する。						
到達目標	臨床教育者の説明・見学のもと、 ・「理学療法士の役割と責任」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。 ・「理学療法の対象者との関係性構築」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。 ・「理学療法の一連の流れ」を理解し説明することができ、その一部を模倣・実施することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅰ・水準Ⅱ」の内容を模倣・実施することができる。 ・「対象者に対する理学療法（リスク管理、理学療法評価、理学療法治療技術）」を理解し説明することができ、「水準Ⅲ」の内容を見学することができる。 ・「多職種連携の展開」について理解し説明することができ、その一部を実施することができる。						
時間	授 業 計 画 ・ 内 容						
315	280時間の実習施設内での実習と35時間の実習時間外学修・臨床実習前後の評価で構成される。臨床実習前には学力・実技の確認テストを実施する（診断的評価）。臨床実習後には実技の確認テストを実施する（総括的評価）。						
評価方法	授業参加度、意欲、態度、課題、臨床実習後評価等を加味し総合的に評価をする。						
教科書	なし						
参考書	なし						
備考							